



幸いな人の条件・・・何のコントロールから？

牧師 立石尚志

● グリニッチは緑の深い季節

いつもグリニッチ便りをお読みくださり感謝します。新緑の季節も過ぎ、グリニッチの町は緑の濃い6月に入りました。北米北東部は地域的に水が豊富で私たちの周りにはたくさんの小川が流れています。私は時折自動車を停めて、川のほとりまで行き、しばし流れる水と生い茂る木々を眺めるのですが、不思議と心が平安で満たされていくのを感じます。そんな時、いつも思い出すのが旧約聖書／詩篇1:2-3の言葉です。「幸いな人とは誰か？」という問いかけに対して、「その人は主のおしえを喜びとし、昼も夜もその教えを口ずさむ。その人は、水路のそばに植わった木のような。時が来ると実がなり、その葉は枯れない。その人は、何をしても栄える。」とこの詩篇は答えています。この詩篇は中東の乾燥した環境下で書かれていますから、本来のイメージは「砂漠の中にあってなお水々しく葉をつけている木」かも知れません。しかし教えのポイントは明確です。「幸せの条件」は「人が口にする言葉」に掛かっている、ということなのです。

● 船に舵、馬に轡、では人生のハンドルは何？

「口／言葉」との関連で、新約聖書ヤコブ書3章5節にも大切な真理が教えられています。船の場合は舵（ラダー）、馬の場合は轡（くつわ）を操作することでそれぞれが進む方向を定めることができますが、人間がどっちに進むかを決定する「器官」は「舌」であるとこの節は教えています。舌こそ人生のハンドルなのです。



実例はいくらでも見いだせます。「はい」と言ったから今の配偶者と一緒ですし、「否」と言ったためにならなかった職業があります。「口から出た言葉」が独り歩きし、現実を動かしてしまうことを知っているので「沈黙は金」と言って黙りますし、逆に積極的な言葉を口にして自らを励まして試練を乗り越えます。深く考えないで「思わず発した言葉」で人を傷つけてしまった経験は誰にでもあるでしょう。考えがもやもやしてまとまらない時、実際に口に出して言うことで考えは整理されます。舌にはこのように、決定的に大きな力があるのです。

● 神から与えられた最も優れ、最も恐るべき能力

まぎれも無く、言葉は神が人間に与えられた最も優れた能力です。ヨハネ1章1節に「はじめにことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。」とあるように、神ご自身、本質は「ことば」であり、人間はこの神の性質をプレゼントされているのです。神は力強い「ことば」をもって天地創造をなさいましたが、人間も同様、言葉を用いてあらゆる営みをし、あらゆるものを生み出します。政治と経済、学問や文芸、思想や哲学、建築物、工業製品、夕飯の献立に至るまで言葉抜きに成立しないということを考えてみたことがあるでしょうか。

一方、「口は災いの元」であり、「舌禍」などという言葉もあります。人間の最高の能力は最悪の「害」を生み出すのです。さきほどのヤコブ書3章の続き、6節と8節には「舌は火であり、不義の世界です。舌は私たちの器官の一つですが、からだ全体を汚し、人生の車輪を焼き、そしてゲヘナの火によって焼かれます。・・・舌を制御することは、だれにもできません。それは少しもじっとしていない悪であり、死の毒に満ちています。」とあります。残念ながら世の中、あらゆるところで否定的、暴力的な言葉が語られ、虚偽が横行し、それらの悪い言葉から苦しみ、虐げ、破壊の現実が日々、世界中で生み出されています。神に背を向けた人類の抱える「舌の深刻な問題」は人類史の最初から災いをもたらし続けているのです。

● 語る言葉が変われば人生も変わる

言葉で失敗しない人は誰一人いません。キリストはマタイ12章36節で「人はその口にするあらゆるむだなことばについて、さばきの日には言い開きをしなければなりません。」と警告されました。地上の生涯を終え、神の法廷に立たなければならないことを考えてみてください。そこで、自分が生涯口にした言葉、誤った行動が全て開示されるのです。有罪判決を免れることはできません。しかし、そもそも聖書が書かれたのは、やり直し／セカンド・チャンスの希望があることを伝えるためなのです。

まず求められることは、1) 神の前での罪を認め、2) 自分が本来受けるべき刑罰をキリストが十字架上で身代わりとなって受けてくださったことを感謝して受け入れ、3) 残りの人生、神に従う決心をすることです。そうするなら、神は私たちの過去の過ちを一切赦して下さり、私たちの言葉と行動の罪を全部、帳消しにしてください。

その上で、新しい歩みが始まります。その第一歩は、口で発する言葉を変えていくことなのです。まず、今まで自分の人生をいつも悪い方向に向けて来た悪い言葉、否定的な言葉を捨て、それらを、人生を正しい方向に導く言葉に置き換えて行くのです。旧約聖書／申命記8章3節に「人はパンだけで生きるのではない、人は主(神)の口から出るすべてのもので生きる」とあります。人はもともと、愛と恵みに富み、知恵と洞察に満ち、正しくきよい神の言葉を学び、生活に当てはめることによって生きるよう、造られているのです。その時初めてフルに開花できるのです。

あなたの心には今、どんな言葉が蓄えられていますか。あなたはどんな言葉を日々口にしていますか。これをお読みくださり、自分の人生を幸いに導く神のことばをご一緒に学びたいと思われの方がいらっしゃいましたら、是非、ご連絡ください。お待ちしております。幸いな人、その人は主の教えを喜びとし、昼も夜もその教えを口ずさむ人です。祝福をお祈りしつつ。■

二年間の滞在の神の恵み／父を天に見送って K. E. さん (2012年4月帰国グリニッチ0B)

2010年4月のイースターではじめてグリニッチ福音教会に来てから、あつという間の2年間でした。聖書に全く無縁だったため、はじめは、信じるも信じないもなく何がなんだか分かりませんでした。私は、物理学をは

じめ現代科学というものを自分の世界観のベースとして生きていましたので、聖書の記述というものは何か意味があるものの科学的検証に耐え得るものでもないし、歴史的事実を記載したものでもないのだろうと受け

取っていました。しかし、米国生活での仕事上での困難や子供の学校での悩みも信仰を深めるうえではプラスに働きました。教会に通うことが私たち家族の救いとなっていたのでともかく受け入れるためにはどうすれ

ばよいのが、自分のそれまでの世界観と折り合いをつけていく作業がはじまりました。立石牧師の聖書入門の学びや、教会に通うことに熱心だった妻に導かれて少しずつでしたが、2010年の夏頃には信仰を理解することができるようになりました。しかし、その時点では受洗についてはまだ先のことで妻には「先にどうぞ」と言っていました。9月になり、娘の新学期がはじまりましたが、現地の公立学校ははじめずに多くの問題が発生しはやく解決したい状況となりました。考えてもいなかったことですが、娘をクリスチャンスクールに通わせることにしました。娘は、聖書の御言葉を私に教えてくれるようになりました。そして讃美歌も、振付までもです。私は、娘が生まれる前に大きくなった娘の正夢を見たことを思い出していました。そして米国に来て教会に通うことができるようになり、娘がクリスチャンスクールに通うようになったこともすべて神様の恵み、導きと思えたときに妻とともに受洗することを受け入れられるようになりました。10月にちょうど聖書入門の学びを終えて受洗の意思を確認されたとき、まだ聖書をよく理解していませんでしたが、導きに任せることにしました。そして妻や先生の導きや様々な出会いを通して自分でも不思議なほど自然に信仰を深め、2010年12月には洗礼を受けました

クリスチャンとして迎えた2011年は、仕事の忙しさと2歳の息子にまだ手がかかる状態だったので教会で落ち着いて学びということは難しかったのですが、教会員として奉仕したり、ファミリーキャンプや夏に留守番牧師をされた黒田先生のもとアシラムに参加したり、充実した日々を送ることができました。生活や仕事も慣れてきて米国で長期滞在することを家族で望むようになりました。しかし、2012年の年明け、4月に帰任の可能性があると会社より通告を受けました。予想より数年早い帰任でした。私たちはもう少し長い間米国に居られるように祈りました。2月に帰任の不安をかかえながら「父の学校」に参加しました。その中で私ははじめて自分の父親に手紙を書きました。自分も幼い子供

を持つ父親となったことで父に対する感謝の気持ちを表すことができました。

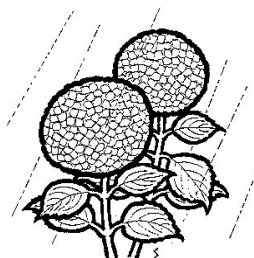
そして3月になり、4月の帰任が正式決定となりました。祈りは聞き届けられなかったのかと残念に思いましたが、神様がよりよい道を備えてくださったのだと信じました。そして、4月に帰国すると、肺がんをわずらっていた父の体調がよくなったとのことで退院して実家に帰っていました。私の帰国に合わせたかのような退院で久しぶりに父と語り合うことができました。しかし退院からわずか三日後、父の容態が急速に悪化し余命一週間の宣告を受けました。突然のことで動転しましたが、なんとか福音を伝えようと思ひ悩みました。悩んだ末、娘にイエス様に毎日お祈りしているという見舞いの手紙を書いてもらい、その返事という形で父の信仰を確認しようと思ひつきました。父はキリスト教信仰については否定的だったので普通に話しをしても受け入れてはもらえないだろうと思ったのです。娘の手紙を携えて病院に見舞いに行き、全知全能の神の存在、人は誰でも罪人であること、イエス様の十字架によって救われたことを自分なりの言葉で説明し、「おじいちゃんも同じ神様を信じているよ」と返事をしてもらい確認しました。父は驚いた様子でしたが、少し考えてからそのように返事してくれとはっきり答えてくれました。

父に福音の語ったのは時間にして20分程度でした。父は末期の肺がんで長い時間話をするのができなかつたという事情もありましたが、自分もそれ以上話すことができませんでした。父が信仰を拒絶するのはという不安と自分にうまく話しをすることができるかというプレッシャーが重荷になっていました。それでも、とにかく信じると言ってくれたことに感謝し安心していたとき、父の学校でお世話になった福澤満雄先生に病床の父に会ってもらったという話があることを米国に残っていた妻から連絡を受けました。正直戸惑いました。あと何日生かされるか分からない状況で初対面の福澤先生に会って負担とならないだろうか、

信仰を覆すのではないかと。母も兄も気持ちだけにいただいたらと牧師先生との面会には反対していました。最終的な返事ができないまま悩み続けているうちに福澤先生より快諾のメールをいただきました。家族の緊急帰国のチケットの手配も済みしました。すべてが整えられていく中で、自分が思い煩っていることに気付きました。

「何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。ピリピ4:5, 6」すべて神にゆだねることを決めたとき驚くほどの平安に心が満たされました。そして4月16日、福澤先生の祈りのもとに父はあらためてイエス様を受け入れて信仰告白をしてくれました。2日後の4月18日、父の病状はいよいよ悪化しモルヒネ投与が始まりました。意識が薄らいでいる父に私は、ヨハネ3章16節、イザヤ書43章、祝福の祈り(民数記6章24-26節)を読み聞かせていると、突然目を覚まして私をじっと見つめました。その時、父が何を言いたかったのか分かりませんでした。御言葉が父に伝わったのだと信じています。そして4月20日の未明に亡くなりました。末期の肺がんとしては奇跡的なほど安らかな最期でした。振り返って見たときに、4月に帰任になったのは最後に父と話しをする機会を与えてくれた神の恵みであったのだと思います。後日、母より聞いたことは、父は「父の学校」で私が送った手紙を病院に持ってくるように頼み、何度も大事に読んでくれたとのことでした。

こうして私の短く夢のような、そして大変恵まれた米国生活は終わりました。日本でまた新しい教会に導かれ、娘にふさわしい学校が与えられて恵み多い生活ができることを神様に感謝します。■



■2012年の集会・行事予定■

※夏は変則的になりますのでお問い合わせください。

【定例集会】

- ★ 日曜礼拝/10:00~11:30
メッセージは託児室でモニターを通して聞く事ができます。
礼拝後 グループ会/12:15まで
大人、子供それぞれのクラスに分かれます
- ★ 祈禱会/水曜日 10:00~12:00

【各種集会】

- ★ スタンフォード 聖書を読む会
隔週水曜 1:15pm
- ★ ハートフォード 聖書を読む会
隔週月曜午前
毎週木曜午前 場所はお問い合わせください

- ★ ハリソン 聖書を読む会
隔週火曜 10:00am 場所:ハリソン長老教会
- ★ マウントキスコ 聖書を読む会
毎週水曜 8:00pm 場所:平野宅
- ★ ハリソン・メンズ・バイブル・フェローシップ
第1, 2, 3 木曜日 8:30pm 場所:荒木宅

● 8/13(月)~17(金) 9:00am~12:30pm 2012 夏 バイブル・キャンプ

● 9/1(土)~3(月) 第四回東海岸日本語教会/合同ファミリーキャンプ

《教会住所》グリニッチ福音キリスト教会 (Japanese Gospel Church of Greenwich)、牧師 立石尚志

c/o St. Paul Ev. Lutheran Church, 286 Delavan Ave. Greenwich, CT 06830 website: www.jgclmi.com

《問い合わせ》 教会 TEL/FAX(203) 531-6450、牧師宅 TEL/FAX (203) 531-1609, e-mail: jgclmi@verizon.net

